

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17038

建築物名称	プレシス新百合ヶ丘
建築主	一建設株式会社 代表取締役 堀口 忠美
建築物の所在地	川崎市麻生区百合丘2丁目11-1、7
設計者氏名、建築士事務所名	安倍 宣仁 株式会社光和設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,817.87m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了年月	平成31年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	プレシス新百合ヶ丘	階数	地上5F
建設地	川崎市麻生区百合丘2丁目11-1,7	構造	RC造
用途地域	第一中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	260 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2019年4月 竣工	評価の実施日	2017年12月22日
敷地面積	2,119 m ²	作成者	株式会社光和設計
建築面積	1,207 m ²	確認日	2017年12月22日
延床面積	4,818 m ²	確認者	株式会社光和設計

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 68%
③上記+②以外の 68%
④上記+ 68%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 4
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目数・最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		4.5/6.8	3.3
3.2 3.2.1 昼光制御	<住宅 住居部分> 庇(上階ベランダ)とカーテン(レール)を設置		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		4.0/5.0	4.0
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	軽鉄下地の為、躯体と仕上材が容易に分別可能	2.5/4.7	2.7
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	躯体材料の耐用年数:劣化等級3	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	軽鉄下地の為、躯体と仕上材が容易に分別可能	2.1/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		4.0/5.0	4.0
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	躯体材料の耐用年数:劣化等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		4.0/5.0	4.0
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		基本設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					3.0	0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.0	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.57	5.0	0.60	
1	広さ・収納性				-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			Gbitクラスのプロードバンド設備を整備	-	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					-	-	2.0	0.40	
1	広さ感・景観				-	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3	内装計画				-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.43	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.5	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R		躯体材料の耐用年数:劣化等級3	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		壁天井ビニルクロス貼 16年以上	4.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し、E種は不使用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4	
LR1 エネルギー										4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H				3.0	0.20	-	3.0
2 自然エネルギー利用		W		H				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEQ][BEIm] =	0.79		5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用								3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価											
4.1	モニタリング	W		H				-	-	-	-
4.2	運用管理体制	W		H				-	-	-	-
集合住宅の評価								3.0		1.00	
4.1	モニタリング	W		H				3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制	W		H				3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル										2.7	
1 水資源保護		W		R				2.2	0.20	-	2.2
1.1 節水								1.0		0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0		0.60	
1	雨水利用システム導入の有無							3.0	1.00	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無							-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								2.8	0.60	-	2.8
2.1	材料使用量の削減	W		R				2.0	0.10	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W		R				3.0	0.20	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R		-		3.0	0.20	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R		-		1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W		R				2.0	0.10	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W		R		軽鉄下地の為、躯体と仕上材が容易に分別可能		5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0		0.30	
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0		0.70	
1	消火剤	W						-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	W						3.0	0.50	-	-
3	冷媒	W						3.0	0.50	-	-
LR3 数地外環境										3.4	
1 地球温暖化への配慮		W				省エネを考慮した設備計画としている		4.2	0.33	-	4.2
2 地域環境への配慮								3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止								3.0		0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0		0.25	
1	雨水排水負荷低減			R				3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮								3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0		0.40	
1	騒音							3.0	1.00	-	-
2	振動							-	-	-	-
3	悪臭							-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0		0.40	
1	風害の抑制							3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制							1.0	-	-	-
3	日照障害の抑制							3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制								3.7		0.20	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					広告照明なし		4.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-

17038

プレシス新百合ヶ丘

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に基づいています。